



医療経営士ニュース | これからの医療現場を担う経営人材のための機関紙

MMS NEWS

2025 4 月号

Vol.170

毎月1回発行(通巻170号)
編集:日本医療企画

一般社団法人日本医療経営実践協会 〒104-0042 東京都中央区入船3-8-7 ザ・ロワイヤルビル5階 TEL.03-3553-2906 http://www.JMMPA.jp/

山梨・東京・千葉の
自主研究会が
合同研究会を
開催!

医療経営士の資格取得後の 新たなステップを考える

日本医療経営実践協会関東支部では、5月24日(土)に山梨・東京・千葉の3地域の医療経営士自主研究会が合同で研究会を開催する。社会医療法人加納岩加納岩総合病院(山梨県山梨市)で行われ、オンラインでも配信される研究会の概要を紹介する。

資格を取った後に継続して学べる場をどうつくるか

合同研究会の中心となっているのは山梨研究会の宮沢圭一氏(社会医療法人加納岩財団事務局長)。昨年福岡で開催された全国医療経営士実践研究大会の場で、当協会理事の大宮謙一氏との懇談のなかで研究会開催の機運が生まれ、実現に至ったという。

「大宮先生と名刺交換をした際、『法人内に医療経営士がたくさんいるが資格取得後にどうするか難しい』と相談したところ、大宮先生も同様の問題意識を持っていました。『まず山梨で何かやりましょう』と言っていたいただきました。その後、大宮先生のほうから東京研究会代表の網代祐介

さん、ちば研究会代表の横田泰洋さんにお声掛けいただき、今回のような形になりました」(宮沢氏)。

合同研究会は4部構成。第1部は石井富美氏(多摩大学医療・介護ソリューション研究所長)による基調講演、第2部では社会医療法人加納岩所属の医療経営士による演題発表4題が行われる。過去に全国大会で受賞経験のある矢野恵美氏と横内聖輝氏が受賞演題を再演するほか、新たに2名が発表する予定だ。

法人内の医療経営士の発表について宮沢氏は、外に向けたアウトプットの場を設けることに意味があるとし、「ここをステップに全国大会を目指してほしい」と思っています」と職員成長に期待を寄せている。

自主勉強会の枠を超えた新たなつながりに期待

後半の第3部では大宮氏、網代氏、横田氏の医療経営士1級資格を持つ3氏が、それぞれのキャリアについて講演。さらに第4部では現地での参加希望者のみによるグループワークとして、医療経営士1級資格認定試験・第二次試験になぞらえ病院経営のシミュレーションも行われる。

こうした流れが定着・常態化すれば、自主研究会の幅が広がることに加え、自主勉強会の枠を超えたつながりが生まれることにもなる。宮沢氏も「病院外の人と触れ合うことは自分のレベルを客観視できる機会にもなりますし、職員の成長を促すためにも、そういう場を設けることが大切です」と病院外との接点を持つことの重要性を強調する。

自主研究会のさらなる発展に向け、今回の合同研究会が新たな潮流のきっかけとなることを期待したい。

東京・千葉・山梨合同研究会

- 第1部 基調講演
「事務職としての医療経営の基本」
石井富美(多摩大学医療・介護ソリューション研究所長)
- 第2部 社会医療法人加納岩医療経営士による演題発表
- 第3部 医療経営士1級のキャリアモデル
- 第4部 ケーススタディグループワーク
「医療経営士1級試験を体験しよう」

日時: 5月24日(土)13:30~17:30
形式: 会場&オンライン
場所: 社会医療法人加納岩加納岩総合病院
(山梨市上神内川1309)
参加費: 無料
主催: 日本医療経営実践協会関東支部
協力: 加納岩医療経営研究会

【お問い合わせ】
社会医療法人加納岩財団事務局
(担当: 宮沢・横内)
TEL 0553-39-9720
k-miyazawa@kanoiwa-hospital.or.jp
詳細・お申込みはコチラから→



第14回 全国医療経営士実践研究大会 神奈川大会

大会テーマ

医療経営士の原点から考える未来

——強固な経営基盤を確立させる戦略的マネジメント

開催日

2025年
11月22日(土)
23日(日)

大会運営委員長 | 三角隆彦 社会福祉法人恩賜財団済生会支部神奈川県済生会横浜市東部病院院長

会場 | ステーションコンファレンス川崎

※5月中旬より参加申込受付予定。
詳細・最新情報はホームページにてご確認ください。

【お問い合わせ先】 一般社団法人日本医療経営実践協会事務局 ☎03-3553-2906 taikai@jmmpa.jp

さまざまな可能性を持つ健診事業で 医療経営士のさらなる活躍を期待



医療機関の厳しい経営状況が叫ばれるなか、保険外サービスによる収入確保は経営の大きなテーマのひとつ。特に予防医療への取り組みが重要視されるなかで、健診事業は注目度も高い。聖隷予防検診センターで事務長を務める池田孝行氏(医療経営士2級)に、健診事業の現状とこれからの可能性、合わせて医療経営士がどのように活躍できるのかについてお話を聞いた。

昨今の人件費の高騰が 事業運営に大きく影響

健診事業は、特性として春から秋にかけて繁忙期になります。閑散期との差が大きいため派遣スタッフなどを多く活用します。しかし、派遣の医師やスタッフの人件費は近年大幅に上昇しており、これが収益に大きな影響を及ぼしています。

健診事業は、病院事業と比較して、高額な診療機器や診療材料など大きな投資をすることなくサービスを提供できるというメリットがあります。その反面、予約受付対応や医療面接、保健指導など人的サービスが占める要素が高く、これらの費用の増加は避けられません。病院併設型の健診センターでは、時期に応じてスタッフを病院と連携しながら回すといった工夫が見られたり、私たちのセンターも、精密検査や労災二次健診などのアフターフォローの枠調整により業務コントロールを行っています。しかし、受診人数を増やせばそれに比例してスタッフも必要となるため、予約や問診票のDX化をすすめることで省人化を図るとともに、より創造的な業務へ人材をシフトし、持続可能な

強い組織を作る必要があると感じています。

地域全体を元気にできる 健診事業が持つ魅力とは

コロナ禍では、多くの産業同様、私たち健診センターも大きなダメージを受けました。その経験を通じて感じたのは、我々は地域の方々の「健康」をサポートをすることはできて、ウェルビーイング(身体的、精神的に健康な状態である)だけでなく、社会的、経済的に良好で満たされている状態を意味する概念)につながる「健幸」の実現には、地域経済や社会的つながりの活性化が不可欠であるということでした。

そのため、行政や企業、未来を担う学生との産官学連携を深め、共創の場を築くことが重要と考え、これまでに私たちの強みである予防医療と他の産業などとの連携により、今までにない新しいサービスの開発・提供を進めてきました。例えば、高齢者のフレイル予防を目的とした弁当を、当センターの管理栄養士と行政、食品メーカーなどと開発し発売した「栄養はなまの弁当」は、これまでに20万食以上を売り上げる大ヒット商品となっています。また、若年世代の婦人科

検診の受診率向上を目的として、近隣大学の学生と行っている「SGE♡プロジェクト」は、その実績や先進性が高く評価され、行政の表彰を受けたり、予防医療系の学会にシンポジストとして招かれるなど、多くの成果を上げています。

健診事業は、受診された方の病気の早期発見・早期治療に貢献するというのももちろんですが、地域医療の未来を切り開く可能性を秘めていると感じています。特に、地域全体の医療費削減に繋がるサービスを、未病の段階から多角的なアプローチができる点に大きなポテンシャルがあると言えるでしょう。

新しい取り組みは、関係者の理解を得るのが難しいこともありますが、実際に進めていくと利用者からの反響も大きく、企業側も潜在的なニーズの存在に気づき、さらに新しい連携やサービスに繋がるといった事例もあります。このような点が、まさに医療経営士の活躍できる場面なのではないでしょうか。

健診事業の分野で活躍する 医療経営士への期待

健診事業は自由診療のため、価格ひとつ取ってみても、診療報酬で定められて

いる保険診療と異なり自由に決めることができず

し、人間ドックのメニューやオプションも、地域の課題を踏まえて柔軟に対応することが可能です。この自由度の高さが魅力である一方、明確な解を見つけないのが難しいという特徴もあります。だからこそ、予防医療に関する専門知識と経営感覚の両方を兼ね備えた医療経営士の力が必要とされているとも言えるでしょう。

この度、会報誌である『理論と実践』において、健診事業に関する連載をスタートさせていただくことになりました。医療経営士の皆さんの中で、実際に健診事業を担っている方はそれほど多くはないかもしれませんが、それでも、病院としての経営的なメリットという面から関心を持って

いる方や、予防医療の分野について興味があるという方は多いと思います。そのような方々に向けて、これまで行ってきた具体的な事例や、時には連携する行政や企業、団体の方々との対談も交えながら、健診事業が持つさまざまな魅力や面白さをお伝えできればと思っています。

す。行政と協力して地域の健康課題を解決したり、企業の健康戦略パートナーとして予防医療の新しいサービスを一緒に考えたりと、アイデア次第で無限の可能性が広がります。地域の方々の暮らしや「健幸」を持続可能にするインフラを創造すると考えれば、責任の重さとともに大きなやりがいもあります。これを担う面白さを伝え、同じ志を持つ仲間を増やしていきたいと考えています。

読んでいただいた方のおかげで、おひとりでも興味を持っていただければ嬉しいですし、そのような方々とともに高め合いながら、新しい取り組みを共創できたらと心から願っています。

社会福祉法人 聖隷福祉事業団 聖隷予防検診センター

〒433-8558 静岡県浜松市中央区三方原町3453-1

電話 053-439-1111(代表)

【設備】各種診察室・面談・診察室/レディスフロア/

フィットネスフロア/

カフェテリア(人間ドック利用者限定)

<https://www.seirei.or.jp/hoken/yoken-center/>

2つの異なるアプローチにより 病院事務職の未来予想図を描く

日本医療経営実践協会関東支部の多摩研究会では5月23日(金)と6月27日(金)の2回にわたり、「病院事務職の未来を考える」研究会を開催する。2つの異なるアプローチから事務職員の未来像をあぶり出そうという同研究会のねらいをお伝えする。

病院事務職のこれから——VUCAの時代とその先の未来

関東支部多摩研究会は東京都西多摩地区の医療機関の医療経営士を中心とした自主研究会。「多摩地域における『医療経営』の研究及び分析を基盤に、経営部門の実務のあり方を確立し、医療及び経営の質の持続的な改善活動を通じて、医療界における連携及び経営の質向上に貢献する」ことを目的として活動しており、昨年は「診療報酬・介護報酬改定」や「医療DX」をテーマとした研究会を開催した。

今回、多摩研究会では「これからの医療経営士はどうなる？」病院事務職の未来予想図」をテーマに掲げ、医療機関の事務職員の未来を2回に分けて考える研究会を開催する。1回目は永生総合研究所所長の神戸翼氏を講師に迎え、「病院事務職を科学する——VUCAの時代とその先の病院事務職を考えるために」と題した

講演を行う。2023年には「病院事務職って本当に必要ですか？」をテーマに神奈川研究会で登壇経験のある神戸氏。変化が激しく先が読めないVUCAの時代に必要とされる医療機関の事務職員像をさまざまなデータを元で考えることで、今、そしてこれからの医療経営士が果たすべき役割を明らかにしていく。

2回目は、現在それぞれの医療機関で事務長を務める小暮桂葉氏と中野雄介氏が、自身のこれまでの経歴と次代の事務長の在り方について講演する。事務職員から事務長までのキャリアパス、これからの時代に求められる新たな事務職員・事務長像について、両名による自身の体験を通じたナラティブなアプローチから考察する。

新たな時代の医療経営士に求められる役割とは

医療におけるEBM (Evidence-Based Medicine)は「根拠に基づく医療」と訳され、客観的なデータ等の科学的な統計を元に最適な医療を考えていくものだ。一方のNBIM (Narrative-based Medicine)は「物語に基づく医療」とされ、患者一人ひとりの背景や抱える問題といった、それぞれが持つ「物語」に注目する。現在ではこの両者は対立するものではなく相互補完的なものとして捉えられており、患者中心の医療を実践するための両輪であると考えられている。今回の多摩研究会のアプローチは、医療機関の事務職員の未来について

EBMとNBIMの両面から考えていくものと言えるだろう。事務職員の未来を考えることは、医療経営士の未来を考えることにも通じる。医療DXの進展で事務職員の業務内容は大きく変わろうとしているが、医療経営士に期待される役割も当然これまでとは異なる、新たなフェーズに突入していると言える。今回の研究会でその学びを通して、ぜひそれぞれの医療経営士の新たな未来予想図を描いていただきたい。

関東支部多摩研究会 開催概要

これからの医療経営士はどうなる？ 病院事務職の未来予想図

- 日時 5月23日(金)・6月27日(金) 両日19:00～20:30
- テーマ 5月23日(金)
「病院事務職を科学する——VUCAの時代とその先の病院事務職を考えるために」
▶ 神戸翼 氏(医療法人社団永生会永生総合研究所所長)
- 5月27日(金)
「現役事務長が語る、“本当は語りたくない”医療機関事務職のリアルな現実」
▶ 中野雄介 氏(医療法人社団永生会永生病院・みなみ野病院統括事務部長)
▶ 小暮桂葉 氏(医療法人社団三秀会羽村三慶病院事務長)
- 会場 医療法人社団永生会 南多摩病院 8階会議室(八王子市散田町3丁目10番1号)
- 参加料 (各回) 会場…会員1,000円(税込)／一般3,000円(税込)
オンライン…会員1,500円(税込)／一般3,500円(税込)
- 形式 5月23日(金)…会場とWEBのハイブリッド
6月27日(金)…会場開催のみ

5/23会場の
詳細/
お申し込み



6/27会場の
詳細/
お申し込み



【主催】日本医療経営実践協会関東支部多摩研究会
【お問い合わせ】多摩研究会事務局
メールアドレス: mmsoc.tama@gmail.com

最新医療経営

最新情報を踏まえ新たな病院像を描く「経営の時代」の羅針盤
PHASE3
フェイス・スリー

5月号
好評発売中!!

病院経営レポート

病院経営が前代未聞の悪化

日本医師会、日本病院会等関連7団体が3月12日に公表した「合同声明」。「病院がいま危機的状況」「地域医療はもう崩壊寸前」と病院経営の現状を訴え、「このままではある日突然、病院がなくなります」と呼びかけている同声明は、病院6団体が合同で実施した調査「【緊急調査】2024年度診療報酬改定後の病院の経営状況」が根拠となっている。7割近くが赤字、福祉医療機構による債務償還年数分析では半数が破綻懸念先と判断されるなど、関係者の間では「ここまで悪いとは」という声も挙がったその概要をレポートする。

詳細・ご購入は
コチラ



事務局 掲示板

1級資格認定者のみに許された特権
医療経営指導士の制度を活用しよう

当協会では医療経営士1級の方が申請できる「医療経営指導士」の制度を設けています。協会への登録申請により、「医療経営士」「医療経営指導士」の名称を冠した試験対策講座や研究会・講演会の主催が可能となり、事業に伴う収益を得ることも可能。資格要件や申請方法の詳細については当協会ホームページでご確認ください。

「医療経営指導士」制度について

<http://www.jmmpa.jp/support/shidoushi/>

会報誌『理論と実践』投稿募集中

自分の声を会員に届けよう

当協会が発行している会報誌『理論と実践』では、会員の皆さまからの投稿を募集しています。日頃の職務における疑問や悩み、業務改善へ向けたアイデア、病院経営や医療政策・制度に関する論文や問題提起等、内容は自由です。採用原稿については薄謝を進呈いたします。お気軽にご投稿ください。

【お申し込み】E-mail: info@jmmpa.jp

BOOKS

『頭痛・認知症診療でクリニック経営を成功させる技術』

クリニック経営のリアルが凝縮！
開業予定の医師必読の一冊！

国内で頭痛に悩む人は約4,000万人、認知症は予備軍も含めると約1,000万人といわれる。しかしその診療体制はまだ未成熟であり、特に頭痛においては医療機関の受診にすらたどり着かない人も多く、治療の難しさや特化した診療報酬が少ないことからクリニック経営としても難しさが指摘されている。

医療法人札幌いそべ頭痛・もの忘れクリニックは、その逆境下で頭痛と認知症の両診療科を掲げ、経験豊富な専門医と多職種による独自の診療体制を確立、クリニック経営を成功に導いている。本書では同院の診療メニューや効果的な診療オペレーション等をリアルに解説。これから開業を考えている医師はもちろん、多くの医療者に手に取っていただきたい。

- 著者：磯部千明(医療法人札幌いそべ頭痛・もの忘れクリニック理事長/医学博士)
- 定価：1,650円(本体1,500円+税) ●体裁：B6判/140ページ ●発行：日本医療企画

頭痛・認知症診療で
クリニック経営を
成功させる技術

磯部 千明

医療法人 札幌いそべ頭痛・もの忘れクリニック 理事長



JMP

日本医療企画

日本医療経営実践協会 支部研究会スケジュール

開催日	開催支部	テーマ	講師
4月29日(火祝)	東海	医療介護福祉サロン 「おひとりさま」のこれから お金の話	田中賢司氏(医療法人社団宏和会岡村記念病院 企画運営部部長)
5月16日(金)	関東	第56回神奈川研究会 診療報酬改定DX	杉本由紀雄(社会保険診療報酬支払基金情報化企画部) 中島淳氏(社会保険診療報酬支払基金情報化企画部)
5月23日(金)	関東	第4回多摩研究会 病院事務職を科学する —VUCAとその先の病院事務職を考えるために	神戸翼氏(医療法人社団永生会永生総合研究所所長)
5月24日(土)	関東	東京・千葉・山梨合同研究会	石井富美氏(多摩大学医療・介護ソリューション研究所 副所長)ほか
5月31日(土)	東海	医療介護福祉まるごとプレゼン大会 深掘りグループワーク	井出亜紀子氏(裾野市居宅介護支援センター介護支援 専門員・看護師) 杉山訓子氏(川村病院)
6月20日(金)	東北	第28回みやぎ仙台ネットワーク 「大雄会第一病院の新たな挑戦について」	日比野友也(社会医療法人大雄会事務長)
6月27日(金)	関東	第5回多摩研究会 現役事務長が語る、「本当は語りたくない」 医療機関事務職のリアルな現実	中野雄介氏(医療法人社団永生会永生病院・ みなみ野病院統括事務部長) 小暮桂葉氏(医療法人社団三秀会羽村三慶病院事務長)

※日程等は変更になる場合があります。詳細は協会ホームページでご確認ください。

医療経営士 3級 2級 資格認定試験

受験エントリー

締切間近!

5月1日(木)
まで受付中!同僚や
お知り合いの方に
ご紹介ください

医療経営士 資格認定試験 日程

試験日

2025年 **6月15日**受験エントリー期間 **4月1日(火)~5月1日(木)**受験料支払締切日 **5月2日(金)**

※受験エントリーにはマイページへの登録が必要になります。
詳しくは協会ホームページをご確認ください。

	第45回「医療経営士3級」	第29回「医療経営士2級」
受験料 ※手数料別途	9,100円(税込)	16,000円(税込) 両分野受験者 14,000円(税込) 分野受験者 (分野合格者)
受験資格	年齢、学歴、国籍等の 制約はありません	3級資格認定試験合格者かつ、 本協会正会員
試験会場	札幌・仙台・東京・金沢・名古屋・大阪・広島・高松・福岡・那覇 ※2025年3月現在	

団体受験 ◇受験者10名を超える場合、団体としてまとめてお申し込みできます。
◇一定の条件を満たした場合、認定会場制度をご利用できます。※審査があります。